

## この「個」に注目番外編

## 私 の 音 馴 染 み

私が上野動物園を通勤路として利用していた頃、もうかれこれ40年ほど前の話になります。その頃、私には園内に、何人(何頭)かの「馴染み」がいました。

当時、現在の東園のバードケージの場所に、南米産の広鼻猿の仲間を展示していました。ジェフロイクモザルのジュボ(♂)は、私が檻の前に立つと、人止め柵と檻の間が一番狭くなっているコーナーに移動して、そこに来いと言うのです。指示に従うと、ジュボは檻の間からクモザル特有の長い尾をぞろりと出します。そして、お前の手を出せと、これまた命令するのです。「馴染み」ですから、まあ仕方がないと付き合っていると、尾を私の手に巻きつけ、体をあずけて、のんびりし始めます。湿った尾と、その内側にある滑り止めのための尾紋の感触は独特で、体臭と相まって、南米熱帯雨林の森で、足と尾を使って木から木へブラキエーションをして移動していくクモザルの姿が思い起こされます。百聞は一見にしかずではありませんが、動物観察には「見る」だけではなく、「触る」「嗅ぐ」も入っています。ボランティアガイドの時間に子ども達にも触らせたいと思ったのですが、人畜共通感染症の問題から断念しました。

ヒヒ舎と呼ばれていた現在のサル舎には、狭鼻猿の仲間がいて、ドグエラヒヒのカーコ(♀)も、私に必ず挨拶に来てくれる「馴染み」の1頭でした。しかし、私に挨拶する前に、必ず、婿として安佐動物公園から来園し



動物園水族館に通う人には、多かれ少なかれ、それぞれ訪問の都度、必ず会いに行く個体がいるのではないのでしょうか。長年、上野動物園に足を運ばれている正田先生にも、もちろんそんな個体がいそうです。そんな「個」たちについてご紹介いただきます。

たアサタロウ(♂)のところに行くのです。そして、アサタロウにお尻を突き出し、触ってもらい、それから私のところに行ってくる。「正田さんがいらしたから、私ちょっと挨拶に行ってくるけど、いいかしら」「ああ、いいよ。行っておいで」とでも話していたのでしょうか。そんなアサタロウに気を遣わないで私の方に来ればいいのに、とも思いましたが、人の家族には家族のルールがあるように、群れで暮らす動物には群れのルールというものがあるのでしょうか。

群れのルールと言えば、ブタオザルのブスケ(♂)のことも思い出します。群れの第一位のブスケとは唇をピクピク動かして挨拶しあう仲でした。ブスケが、動物病院に入院、治療が終わって群れに戻ってくることがありました。戻ってすぐ、第2位だったチザムと喧嘩になりました。チザムはボス気取りです。ブスケは私の姿を見つけると飛んできて、いつものように挨拶をしましたが、チザムが、今のボスは自分で、その自分を差し置いて外の者と挨拶するとは許しがたい行為だと言わんばかりに、ブスケに噛み付きました。取っ組み合いが始まり、チザムは、自分が上だと認めさせようと、ブスケに何度もマウントをします。ブスケは、いきなりの、これまでに受けたことのない屈辱にとうとう失禁してしまいました。「馴染み」のブスケがどうしているか心配で、翌日、陰からそっとのぞいてみると、少し高いところに設置してある棚の上に、群れの皆が並んでいました。私の姿はつけたものの、誰も挨拶に来ません。どうしたのだらうと前に回って呼ぶと、ブスケが挨拶に来ました。チザムもやってきましたが、ブスケがチザムの腕を振り払うと、奥に引っ込みました。メス達はブスケの周りにいます。体力が回復して、ブスケはボスに返り咲いたようです。ブスケもチザムも、第三者である私に自分の地位を、力を認めさせようとしたのでしょうか。どこかの世界でも似たようなことがあります。

「馴染み」がいる動物園は楽しいものです。今号の「この個に注目」のコーナーで、今の私の「馴染み」の1頭である口之島牛の桜を紹介してもらいました。是非、読んでください。🐮

# この個に注目

東京都在住 口之島牛の

## 桜(さくら)さん(♀)

生年月日:2008年4月20日

出身地:名古屋大学大学院生命農学研究科附属施設

性格:おっとりしていて、ひかえめ

紹介者:橋川 真弓さん(上野動物園)



上野動物園では2007年頃から、野生動物ほど光の当たらない在来家畜に光を当て、少しでも多くの来園者に知ってもらおうよう、様々な在来家畜を飼育しています。今回はその中でも、在来牛である「口之島牛」の桜の紹介をしたいと思います。

在来牛は子ども動物園エリアで一番初めに会うことができる在来家畜で、「口之島牛」の桜(メス)と「見島牛」の初春(去勢オス)と一緒に展示されています。初春は大きな角がトレードマークで男の子に人気があります。一方桜は額にある白いハート模様がトレードマークで、女の子に人気があります。桜は白黒模様と言うこともあり、よくホルスタインに間違われることがあります。まだまだ認知度が低い「口之島牛」ですが、少しでも多くの来園者に知ってもらうため地道に「口之島牛」そして桜のことをお伝えしています。

桜は2008年10月に、生後7ヶ月で来園しました。来園当初は、初めての環境にオドオド、ビクビクしていました。誰かと一緒にいると落ち着くようで、柵をくぐりぬけ隣の運動場の「トカラ馬」の琥太郎こたろうにすり寄ることもありました。その後「見島牛」の初春が仲間入りしたことで、安心したようでした。



小さい頃から一緒にいる見島牛の「初春」がいると落ち着きます

とはいえ、桜の警戒心の強さは生まれつきのように、今でもベタベタ触ることは出来ません。しかし担当者が運動場前を通ると柵越しに後をつけて歩いたり、体の大きな初春よりも大きな声で何度も餌の催促をしたり、初春に餌を取られてしまい担当者のお尻をなめてアピールしたり・・・控えめではありますが、桜なりの表現方法で色々なことを伝えてくれます。

在来牛は、西洋種と交雑した和牛とは異なり、明治時代より前に農耕などに使われていた牛のことで、現在「口之島牛」と「見島牛」の2種しか残っていません。今後さらに、保護や保存、普及をしていかなければなりません。メスの桜もいずれその一端を担わなければなりません。是非上野動物園にいるうちに、「口之島牛」の桜をご覧ください。🐮

～この個に会える動物園～

### 上野動物園

<https://www.tokyo-zoo.net/zoo/ueno/>

所在地:東京都台東区上野公園9-83

電話:03-3828-5171

開館時間:9:30～17:00(入園は16:00まで)

※開園時間は変更することがあります。

休館日:月曜日(月曜日が国民の祝日や振替休日、都民の日の場合はその翌日が休園日)、年末年始(12月29日～翌年1月1日)

入館料:一般 600円 65歳以上 300円

中学生 200円

※小学生以下(小学校6年生まで)、都内在住・在学の中学生、障害者手帳、愛の手帳、療育手帳をお持ちの方と、その付添者(原則1名)は無料。

\*上記は平成27年11月現在の情報です。  
詳しい情報は直接ご確認ください。